タイトル(研究テーマ)

在原分校の活用による地域活性化について

メンバー

梅村 淳 川尻 耕生 竹内 恵美子 成宮 範子 平松 弘三

研究内容・目的

・目的

在原区および在原分校の現状を把握し、そこに住む住民の希望も聞きながら、在原分校の持続性のある活用方法を検討し、それを踏まえ地域活性化の提案を行う。

・内容

マキノ北小学校在原分校の沿革の把握

在原区民の現状

在原分校の現状

区民の将来に対する希望(地域に喜ばれる廃校活用)

分校の活用に関する提案(在原地域を活性化し地方創生に役立てる)

経緯

過疎地域における小学校等の統廃合により、使わなくなった小学校等の有効活用が全国各地で話題となる中、廃校となった在原分校の活用を通じて、地域活性化を図る提案ができないかとの思いから、このテーマとなった。

調査したこと

- ・「これからのありはら」に参加し、現地確認と地域住民の思いや希望を調査
- ・在原分校の図面を入手し、分校がどのような間取りになっているか確認
- ・マキノ北小学校在原分校の沿革を調査
- ・他地域での廃校利用の実例を調査

チーム活動内容

- ・「農山漁村振興推進計画及び事業実施計画」に基づく「これからのありはら」に参加し、ワークショップを通じて、在原の現状を把握できた
 - 地域住民の意見の尊重
 - 地域から求められているものは何かを考えた
- ・キーパーソンである福井さんの話を伺い、分校の活用を踏まえた在原地域の今後について、チーム内で検討

収集した情報、発見

- ・在原地区は、現在19世帯人口38人(令和6年8月地点)
- ・在原地域の宝物【人の恵み】【環境の恵み】【食の恵み】
- ・在原分校の現状
 - 高島市行政管理課が管理
 - 1990年に新築されたが、数年間使用したのみで、良好な状態
 - 体育館が地域住民の広域避難所になっている
- ・明確な文献はないが、在原業平が住んでいたらしい
 - 在原業平の墓がある
 - 百人一首に詠まれた「ちはやふる神世も知らず竜田川唐紅に水くるとは」の龍田川が区内を流れている
- ・福井さんが住民をけん引している様子
- ・「くくるとは」という施設があり、地域住民と外部の方々との交流の場となっている
- ・在原地域に住むお年寄りの方からは、できることで収入を得たいというご意見もあった。
- ・「くくるとは」と「在原分校」の活用のすみわけが必要
- ・全国にはたくさんの廃校活用事例があるものの、持続できているものは少ない。
- ・「在原分校」にはとにかく定期的に人が入り、何かしら使用することが大切。
- ・廃校利用の例として、福井県美浜町WAKUWAKU(ピッツアリア&カフェ)をリサーチ
- ・「食」に集う地域の人や外部の人たちをリサーチ

結論・提案

- ◎建物の利活用は一過性のものであってはならない
フェスティバルのような大きな企画もよいが、継続的に「人が集う」仕掛けづくりが必要と考える
→そこに地域の方々の意思や賛同は非常に重要
- ◎分校活用はもちろんであるが、在原地域を含む周辺地域にも目を向け、広域的な視点で地域活性化を考える必要がある

上記のような観点から下記のとおり提案する

「在原分校再活用コンセプト試案」【都市農村世代交流拠点】

- ①地域のサロンとしての活用、お誕生日会の開催(毎月)
- ②お試し移住体験
- ③在原業平伝説を踏まえた「ちはやぶるかるた大会」や「子ども百人一首大会」の開催
- ④大学生のゼミ合宿誘致
- ⑤市民大学たかしまアカデミーの本部またはサテライト教室としての定期利用
- ⑥収入につながる手仕事ワークショップの開催
- ⑦『絵本』+『食』+『莉』(+『販売コーナー』)
絵本・・・子どもも大人も本を大切に夢を描ける世界
食・・・地元の食材、伝統的メニュー、〇〇を作る、食す会
莉・・・森林資源の活用、大人のあそび、莉を作る体験
めざすもの・・・地域の人も外から来た人も「ほっ」とくつろげる場所
地域の人も外から来た人も立ち寄りやすく集える場所
「道の駅」よりももっと長時間滞在するイメージ
(将来的には宿泊も検討)
仮称「ほっと(HOT) STATION ありはら(在原)」

→地域内経済循環モデル確立につなげる

今後の展望

- ・在原地区保全協議会の活動に、たかしまアカデミーとして今後も関わりながら、ワークショップでの提案やイベント開催に協力していく
- ・たかしまアカデミー第2期生以降の皆様とともに、関わりを続ける